

「富士山・村山古道」関連図書紹介 2冊

『富士山巡礼路調査報告書<大宮・村山口登山道>』、『富士山表口の歴史と信仰<浅間大社と興法寺>』

当会会報「シリウス・ジャーナル」第68号（2021年9月発行）の図書紹介で、『富嶽村山古道縁起を穿って見た～富士参詣曼陀羅紀行』という駄文を“大棟梁権現 法印法眼 大法螺阿闍梨”なる如何にもそれらしき筆名にて“見て来たような嘘”をデッチ上げてみた。

この時には恥かしながら寡聞にして今回紹介する書籍が発行されていることを知らなかったが、昨年秋に体調を崩してからはもう富士山の頂上まで登る体力は何処かに消えてしまったので、せめてかつての修験古道の一部でも歩いてみようかと文献を漁っていた時に、たまたまこの2冊を入手することができた。

当会でも来る2022年7月に会山行「富士山・村山古道を歩く」が計画されていることでもあり、今回改めて紹介したい。

無雪期の富士登山自体は、シリウス会員の方々にとっては殆ど興味が無く、積雪期や残雪期の登山や氷雪技術・高所順応訓練くらいでしか登られないと思うが、この事情は小生も同様で、海外高所登山にも行けなくなった身には、もはやそのような必要性も無くなった代わりに、かつての修験者（山伏）が辿ったであろう修験の道を時間を掛けてブラブラと独り歩きしてみるのも悪くないと思いついた。

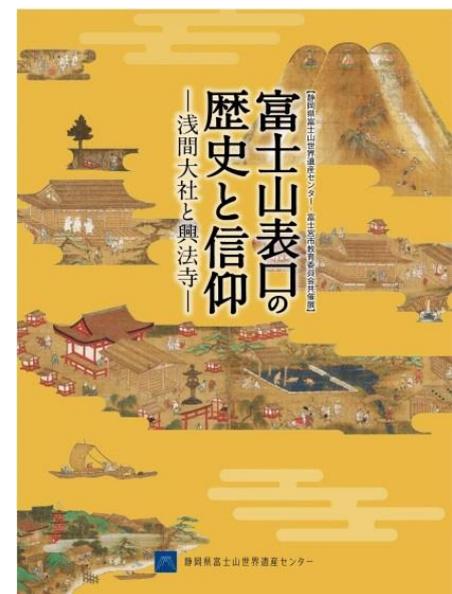
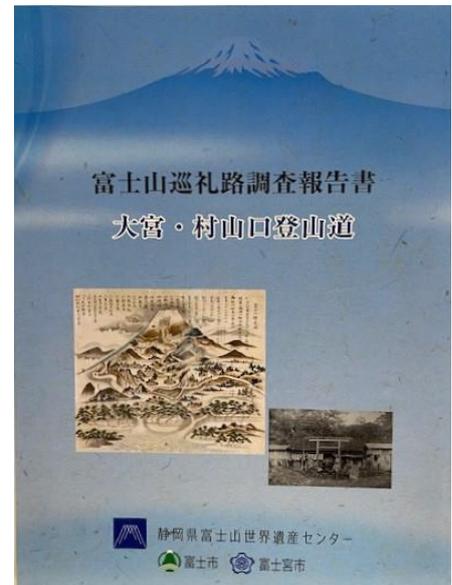
富士山古道は、近年富士宮からの「村山古道」が調査され、往時の巡礼路もその殆んどが同定されてきていて足弱でも時間を掛ければ修験の気分を味わうことが出来るようになってきた。ガイドブックも市販され、通好みの隠れた人気コースとなっている。

しかしながら、市販のガイドブックはこう言っては失礼であるが、どこそこの交差点を右折して〇〇橋を渡り△△林道に入る・・などという道順案内が主なのでイマイチ面白味に欠ける。

そこで、かつての富士信仰登山（修験道）を説き起こしながらその修験道がどのように富嶽山頂まで続いていたのか、その道中にはどのような信仰拠点が繋がっており、またそこではどのような修験行事が行われ、また庶民の場合はどのような物見遊山であったのか等々を参照しながら歩くと、この古道歩きも一層興味が増すのではなかろうかと文献を漁っていたところ、“灯台下暗し”で気が付かなかったのであるが、静岡県富士山世界遺産センターから恰好の上記2冊が発行されていることが分かった。

まずは先に後者の方から紹介したい。この『富士山表口の歴史と信仰<浅間大社と興法寺>』は、令和3年に静岡県富士山世界遺産センターで開催された企画展示の図録である。往時の富士宮口からの富士山登拝修験道であった「富士山表口」（大宮口と村山口）の登山道や修験の拠点であった富士山本宮浅間大社及び村山浅間神社（神仏混淆時代は興法寺）などの様子を古絵図・古写真・古文書から引用して、往時の登拝修験、信仰、民俗・風物などを再現した図録である。

これらの古絵図や古写真を眺めていると、往時の富士山修験道や登拝登山、庶民の信仰、富士山遊行



登山の様子などが髣髴としてきて何となくホンワカとした気分になってくるが、何と云っても本書の圧巻は「富士山参詣曼陀羅」の絵解きであろう。言うまでも無く参詣曼陀羅という絵図は単なる仏画の曼陀羅ではなく、聖地・霊場への信者獲得の為に制作された案内絵図でもある。今風に言えば観光案内パンフレットでもあろうか。

本書で紹介されている曼陀羅図は、その中でも一番有名な「富士曼陀羅図」（国指定重要文化財、富士山本宮浅間大社蔵）以外にも、三種類の曼陀羅が絵解きで紹介されている。富士山本宮浅間大社蔵の曼陀羅図については、冒頭で触れたジャーナル第 68 号図書紹介記事の拙駄文で絵解きの大風呂敷を広げておいたのでご記憶の方も居られるであろうが、本書では更に詳細に 24 枚の部分図幅が切り出されていて細密なカラー画像で紹介されているので、一層興味深く読めるであろう。

他の 3 種類の曼陀羅についても同様な富士参詣曼陀羅図の絵解きであり、夫々の曼陀羅図にはそれぞれの特徴が表わされているので、これらを比較しながら眺めるのも面白いのではなかろうか。

次に、前者の『富士山巡礼路調査報告書<大宮・村山口登山道>』に移ろう。こちらの本は静岡県富士山世界遺産センター、富士市、富士宮市によって平成 29 年から令和 2 年に掛けて共同調査された大宮口・村山口登山道調査の調査報告書であり、その内容はこの登山道の位置、歴史、自然・地理、現況、変遷、民俗、宗教施設や関係仏像、考古資料などが多岐かつ詳細に記述されページ数も 350 頁に及ぶ大冊であるが、その記述内容が専門的過ぎてこの種の内容に特別の興味をお持ちの方以外にはちょっと煩瑣で読みづらい。

そのような内容の中でも、「村山道」（田子の浦から村山浅間神社までの前半部分を「村山道」と呼ぶ。因みに村山浅間神社から富士山頂までの後半部分の巡礼登山道は「村山古道」と呼ばれる）の途中に現在でも残っている「村山道」の道標や石造物、石仏、礼拝石などの写真と、それに纏わる伝承や絵図の記載は、現在では単調で煩瑣なだけかもしれない市街地部分の「村山道」歩きの退屈を救ってくれるのではなかろうか。また、江戸時代初期まで遡る登山記・登山案内も幾つか紹介されていて往時の登山の様子が詳らかに想像できる。

古道の位置については、詳細な地形図（5,000 分の 1 地形図）上に再現されていて、古道ルートを詳細に辿れるようになっているが、本文では図郭が狭すぎて地名などの文字が極小表示になっていて読み取れないので、付属の DVD に収録されている同じ地形図を拡大して見る必要がある。

この DVD には、関係古文書や考古資料、仏像資料など膨大な調査資料が 500 頁にも亘って収録されているが、その中でもそれぞれの時代の往時の登山案内絵図、往時の登山風景写真などが興味深い。

● 『富士山巡礼路調査報告書<大宮・村山口登山道>』

編集・発行：静岡県富士山世界遺産センター、発行日：2021 年 3 月 1 日、販価 1,500 円（税込）

● 『富士山表口の歴史と信仰<浅間大社と興法寺>』

企画・編集：静岡県富士山世界遺産センター&富士宮市教育委員会、

発行：静岡県富士山世界遺産センター、発行日：2021 年 7 月 10 日、販価 1,100 円（税込）

※何れも書店や Amazon などでは市販されていないので、発行元の静岡県富士山世界遺産センターに直接申し込むこと（電話：0544-21-3776 <https://mtfujj-whc.jp>）

なお、富士山曼陀羅図は第 68 号図書紹介記事に沢山載せておいたので、そちらを参照して頂くとして、今号では DVD 収録の往時の登山の様子と登山案内絵図の例を参考までに次頁に示しておく。

（酎）

写真は「明治 35 年京都探遊会・富士登山写真」から 2 枚（「富士山かぐや姫ミュージアム」蔵）
写真：（上）親不知子不知付近、（下）頂上奥宮。案内絵図は「富士山禅定図」（「富士山かぐや姫ミュージアム」蔵）、及び天満山松栄寺蔵「富士参詣曼陀羅、部分」



